

---

# バカな少年は召喚獣!?

広地 永久

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカな少年は召喚獣！？

### 【Nコード】

N0374Z

### 【作者名】

広地 永久

### 【あらすじ】

プロフェッショナルなキングかなガ

P K O 桜蔵 奏は、ある日学園長室に『喚』び出された。

…… 召喚獣として。

「ええっ！？ 早く俺を元の世界に返してください！！」

「おかしいねえ…… ウイルスだったのかね？ そういや今朝眠気に耐えかねてキーボードの上に突っ伏したような」

「このババア！！」

とりあえず普通に人間のまま召喚された奏は文月学園に編入する事になったが……。

「あ、あの、それで俺の『ショウカンジュウ』って、どうするんですか？」

「お前自身に戦ってもらおうか」

「前に読んだ本の主人公が言ってた。『まずはそのふざけた幻想をぶち壊す』って」

「……冗談だよ」

奏は無事に学園ライフを送ることが出来るのか？ また。元の世界に帰る事が出来るのか？

## ブローグ バカとババアと召喚獣(?) (前書き)

やっちゃまった……これから受験で忙しいのに……

読んで下さる皆様方、どうか永久を温かい目で見守ってください。

## ブローグ バカとババアと召喚獣(?)

ババア  
学園長室

カタカタカタ……。

「これでよし、と……。それじゃあ吉井、召喚獣を喚んでくれるかい？」

軽快にキーボードを叩く音がしてから5分ほど。少し間を置いて、エンターキーをタンツと鳴らしながらババアこと学園長がつぶやいた。

「はい、分かりました。本当にもうトラブルは解消されたんですよ？」

物理干渉召喚獣(?) システムが今朝トラブルったとか言ってたけど、何でトラブルなんか起こしたんだろう？

「ああ、もちろんだとも。ほら、アタシも忙しいんだ、早くしな」

……つくづくむかつくババアだ。んー、僕自体もあんまり長くはココに居たくないし、さっさと済ませて帰っちゃおう。  
次の授業は鉄人が来るから、遅れちゃったらややこしい事になるし。

一呼吸置いて、召喚獣を喚び出す為の言葉をつぶやく。

「<sup>サモン</sup>試獣召喚っ！ー！」

……シーン

「あ、あれ？ 召喚獣が出てk」

言いかけた次の瞬間。

ダンッ！！ という耳をつんざくような爆発音が鳴り響き、白い煙がもうもうと現われた。

「が、学園長！！ 一体これはなんなんですか！？」

「さあ？」

煙のせいでシルエットしか見えないけど、なんとなくババアが肩をすくめているのが分かる。

こ、このババア……！！ さあ？ って、明らかにババアの責任じゃないか！！

うう、爆音のせいですごく耳が痛いよ……。

煙の中じゃろくに動く事も出来ないの、その場でじっとする。しばらくすると、煙が引いてきた。そして

同時刻　　???

「本も読み終えちまつたし、何にもする事ないな……暇だ、暇すぎる!!」

「桜蔵君？　そんなにヒマヒマ言ってるなら、ちゃんと授業を受けなさい。あなたはただでさえ他の人たちよりも勉強する必要性があるのだから」

え？　授業？

周りを見渡すと、周りの皆は世界史の教科書やノートを開き、授業を受けていた。

クラスメイト達から、ドツと笑いがこぼれだす。それと同時に、授業終了を告げるチャイムが鳴った。

俺、ずっと授業に気づかないまま本読んでたのか……。道理で集中して本が読めるなーなんて思ったら……。

「はい、これで授業を終わります。皆さん、次も『きちんと』授業を受けてくださいね」

は、恥ずかしい……!!

絶えられなくなって、教室を出る。

「あー、もうこんなの嫌だー……。授業なんて受けなくても大丈夫なところに行きたい!!」

と、つぶやいた所で。

突然、激痛が体中を駆け巡った。

「  
ッー!!」

耐え難い苦痛に、声も出ない。俺、もしかしたらこのまま死ぬかも……。

なんだか激痛のせいで逆に冷静に考える余裕が生まれきた。  
こーゆーのなんだっけ、授業で習ったぞ？ し、し、えーと……。

「そーだそーだ、『心筋卒中』だ」

その言葉を最期に、俺は意識を手放した。



## 再び学園長室

「あー、学園長？」

「なんだい？」

「この銀髪の人、誰ですか？」

「召喚獣……なのかねえ？」

「いやいやいや！！ 絶対違うでしょ！！ 何で召喚したら人間が出てくるんですか！？ 大体、僕とは背格好とかも全然違うし……っていうか、この人意識ないですけど大丈夫なんですか？」

「まあ待ちな。召喚獣ならフィールドを消せば元に戻るはずさね」

そう言って学園長はフィールドを消す。異次元的な空間は、一瞬にしてもとの学園長室に戻った。

「気のせいじゃなければ普通に見えてるんですけど」

「召喚獣じゃないみたいだね」

「当たり前でしょう!？」

僕と同年ぐらいの銀髪の男の子……正しくは、『意識を失っている謎の』銀髪の男の子は、フィールドが消えても召喚獣のように消滅する事はなかった。

煙が晴れる前はこんな人いなかったし、爆発したときに誰かが入ってきたような感じはしなかったし……。

とりあえず保健室に連れて行かないと。

男の子を背負ってみると、僕よりも背が若干低くて、とても軽い事が分かった。

普段一体何を食べて暮らしてるんだろう？

じゃなくて。

大丈夫、だよね……？

僕とババアは、保健室へと向かう為学園長室を出た。

## ブログ バカとババアと召喚獣(?) (後書き)

ご意見感想アドバイスなど、心よりお願いいたします(ペコリ)。  
……あれ、あ、お待ちします!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0374z/>

---

バカな少年は召喚獣!?

2011年12月1日15時54分発行